

甲賀市内の認知症 サポート医

まずは、かかりつけ医等にご相談ください。
かかりつけ医がない場合や、受診につながりにくい場合など
は、地域包括支援センター（表紙参照）にご相談ください。



独立行政法人国立長寿医療研究センターが行う認知症サポート医養成研修を終了し、
「かかりつけ医」への助言等の支援を行うとともに、専門医療機関や地域包括支援センター
等との連携の推進役となる医師を「認知症サポート医」と言います。

医師氏名	医療機関名	☎電話番号
増田 清博	ますだ内科医院	0748-88-2277
古倉 みのり	甲南病院	0748-86-3131
馬場 真奈美	甲南病院	0748-86-3131
今村 陽一	今村医院	0748-86-2119
中島 恭二	甲賀市立みなくち診療所	0748-62-3346
今枝 加奈子	甲賀市立信楽中央病院	0748-82-0249
北川 貢嗣	甲賀市立信楽中央病院	0748-82-0249
長谷川 隼人	甲賀市立信楽中央病院	0748-82-0249
小河 秀郎	公立甲賀病院	0748-62-0234
小宅 由朗	水口病院	0748-62-1212
田中 宏一	水口病院	0748-62-1212
宮本 大輔	水口病院	0748-62-1212
えびい 胡井 優	水口病院	0748-62-1212
東 理	かりゆしクリニック	0748-67-0155

滋賀県内の 認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センターは、「もの忘れサポートセンター・しが」
として、認知症にかかわる人からの相談、鑑別診断、専門医相談、
関係機関との連携、地域保健医療・介護関係者への研修等を行う
拠点として県内7か所の医療機関が指定されています。

名称	☎電話番号
水口病院認知症疾患医療センター	0748-63-5430
瀬田川病院認知症疾患医療センター	077-543-1441
豊郷病院認知症疾患医療センターオアシス	0749-35-5345
藤本クリニック認知症疾患医療センター	077-582-6032
セフィロト病院認知症疾患医療センター	0749-68-5716
近江温泉病院認知症疾患医療センター	0749-46-0010
滋賀八幡病院認知症疾患医療センターおうみ	0748-33-7106



若年性認知症に関する相談についても各認知症疾患医療センターで対応しています。

甲賀市 高齢福祉課

0748-69-2175

(2026.8 発行)

甲賀市 認知症ガイドブック ～認知症ケアパス～



認知症が
心配になったら…

まずは、お住まいの地域の
地域包括支援センターに相談しましょう！

水口

水口地域包括支援センター ☎ **0748-65-1170**
〒528-0005 水口町水口 5607 番地 FAX 0748-63-4591

土山

土山地域包括支援センター ☎ **0748-66-1610**
〒528-0211 土山町北土山 1715 番地 FAX 0748-66-1564
(土山地域市民センター内)

甲賀

甲賀地域包括支援センター ☎ **0748-88-8136**
〒520-3492 甲賀町相模 173 番地 1 FAX 0748-88-6557
(甲賀地域市民センター内)

甲南

甲南地域包括支援センター ☎ **0748-86-8034**
〒520-3308 甲南町野田 810 番地 FAX 0748-86-8029
(甲南地域市民センター内)

信楽

信楽地域包括支援センター ☎ **0748-82-3180**
〒529-1851 信楽町長野 1251 番地 FAX 0748-82-3138
(信楽開発センター内)

県の相談窓口

もの忘れ介護相談室 ☎ **0120-294-473** (フリーダイヤル)

(公益社団法人「認知症の人と家族の会」滋賀支部)
月・水・金(祝日休み)の10時～15時

今どきの豆知識！

「新しい認知症観」って？

認知症になってもできること・やりたいことがあり、地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

「認知症施策推進基本計画」で提唱

認知症について知ろう

認知機能の衰えで、日常生活に支障をきたしている状態を認知症といいます。

アルツハイマー型認知症

女性に多く、進行は緩やか
記憶障害が著しい

- 少し前のことを忘れる
- 同じことを何度も言う
- 日にちが分からなくなる

脳血管性認知症

男性に多く、脳血管障害で脳細胞が死滅することで発症

- 意欲が低下する
- 涙もろくなり、感情の制御がしにくい
- 脳卒中の発作のたびに症状が悪化

認知症の主な疾患

レビー小体型認知症

歩行が小刻みで転倒しやすくなったり、幻視があらわれることがある。

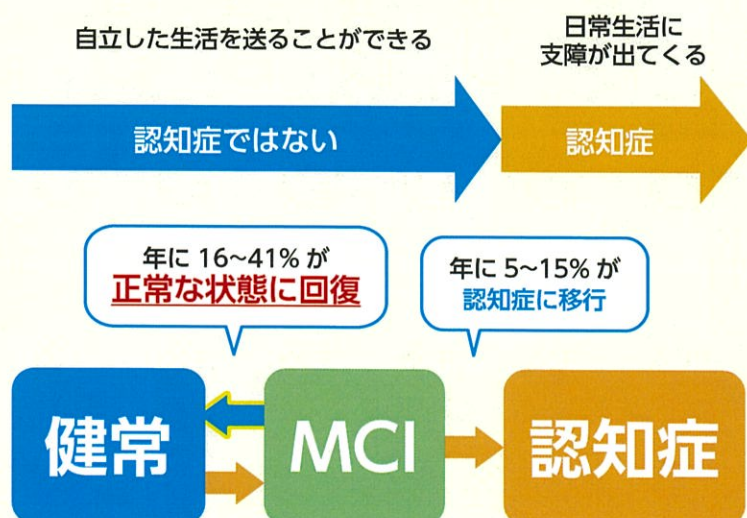
- 子どもや虫が見えると言う
- 睡眠中に大声を出したり、手足をばたつかせる

前頭側頭型認知症

意欲や理性、感情のコントロールが難しくなる。万引きや無銭飲食など反社会的な行動が増える。

- 同じ時間に同じ行動をとる
- 不潔をいとわなくなる

認知症への進行イメージ



「認知症疾患診療ガイドライン 2017」を参考に作成

ちょっと教えて！

MCI(軽度認知障害)とは？

軽度認知障害は、健康な状態と認知症の中間に位置し、記憶力等の低下はあるが自立した生活はおくれる段階です。

放置すると約1年で約1割が認知症に移行するが、適切な生活習慣改善で回復する可能性があるため、早期発見・早期対策が重要とされています。



早期発見のメリット

認知症は病気です。完治は難しいですが、早期に適切な対処をすることで、その人らしい生活を続けることができます。



早期であれば治療が可能な場合があります。

認知症の原因はさまざま。治療ができる疾患である場合もあります。まずは受診し、原因となる病気の診断を受けましょう。



対処の方法を知ること、進行を遅らせることができます。

生活習慣の改善や社会参加の機会づくりをすることで、認知症の進行を遅らせることができます。また早期で条件が合えば使用できる薬の開発も進んでおり、進行を遅らせ、自立した生活が送れる期間が伸ばせるようになってきています。



本人も、家族も、事前に準備ができます。

病気と向き合い、見通しを持つことで、今後の生活に備えることができます。認知症のことについて学んだり、相談先を見つけ、介護サービスの利用方法について一緒に考える時間が持てます。家族会や認知症カフェなどで相談や交流ができることで、不安や孤独を和らげることができます。

受診するときのコツ



- いきなり認知症専門医にかかることに抵抗がある場合は、まずはいつものかかりつけ医に相談してみましょう。
- 本人と一緒に受診することが難しい場合は、まずは家族だけでも相談してみましょう。
- いつごろから症状が出たか、おかしいなと気づいた出来事、普段の健康状態などをメモしておく伝えやすいです。
- 本人の自尊心を傷つけないように、事前にメモを渡すなどの工夫も有効です。

